

「CADL」がケアマネジメントを変える！

CADLで尊重するのが「自己有能感」。自分は役に立っているという意識は人生の自己肯定感の土台です。その基本が「仕事・貢献(お世話・ボランティア)」の項目です。これまでの職業歴やボランティアで身につけた経験や技術、エピソードから本人のやる気スイッチを探します。

CADLとは？

文化的日常生活活動・行為 (Cultural activities of daily living) のこと。ICF (国際生活機能分類) に依拠し、参加・活動を含む日常生活で行う本人の「文化的な生活活動・行為及び要素」をいう。「自分らしさ」を尊重した「生きて在ることへの肯定」を、理論的に支えることを目指す。本連載の筆者高室しげゆき氏が提唱。



第17回 ～仕事・貢献(お世話・ボランティア)～

利用者が意欲的になるのは「楽しい」ことばかりではありません。能力が発揮できる・認められる・感謝されるという「行為・参加」に、本人を肯定的にとらえ、動機づけるパワーが宿っているとCADL理論では位置づけます。その代表格が「仕事・貢献」です。

仕事・職業の聴き取りポイント

男性高齢者の聴き取りで「仕事・職業」は大切なキーワードです。男性が働く理由は経済的自立だけでなく、家族の養育、家督・家業の継承、自己実現・生きがいまでさまざまです。

職業には農業や水産業などの第1次産業、製造業などの第2次産業、流通や販売・サービスなどの第3次産業があります。業務も製造・営業・事務ではかなり異なります。工芸品や料理人など「技」で勝負する職人系では仕事観と価値観は異なります。

1. 成果・成功に着目する

会社員タイプは成果重視・売上げアツ

プ、利益と効率性向上で励み、何より年収に連動する役職経験は自慢の1つ。どのポジションまで達したのかを質問します。

・「定年はどの役職で終えられたのですか？」

では伝統工芸や技で勝負する人はどうか？技術の継承や完成度、芸術性など「自分評価」が基準です。自己表現や創造性、プロセスと完成度が大切。仕事に時間を惜しみません。

・「〇〇の技を極めるまで、どのようなご苦労(修業)をされましたか？」

2. やりがいに着目する

団塊高齢者の会社員系には、「仕事・職業・会社へのほれこみ・やりがい」などのこだわりがあります。

伝統工芸や技で勝負の職人系は創作活動や技術を磨く(腕をあげる)こと

自体がおもしろく、やりがいになっています。

・「〇〇のお仕事で、どのようなやりがいを持たれていたのですか？」

3. 働き方に着目する

高度経済成長期、団塊サラリーマンは「24時間戦えますか!」を地で行くモーレツさを求められました。職人系・芸術系は時間を忘れて作業に没頭することが幸福感いっぱい、仕事と生活の境界が曖昧でもりなくできる人たちです。

・「現役時代はどのような働き方をされていたんですか？」

社会貢献の聴き取りポイント

ボランティアに取り組む割合に男女差はほぼなく、男性でも積極派が増えているのがここ10年間の傾向です。次の心理的特徴が見られます。

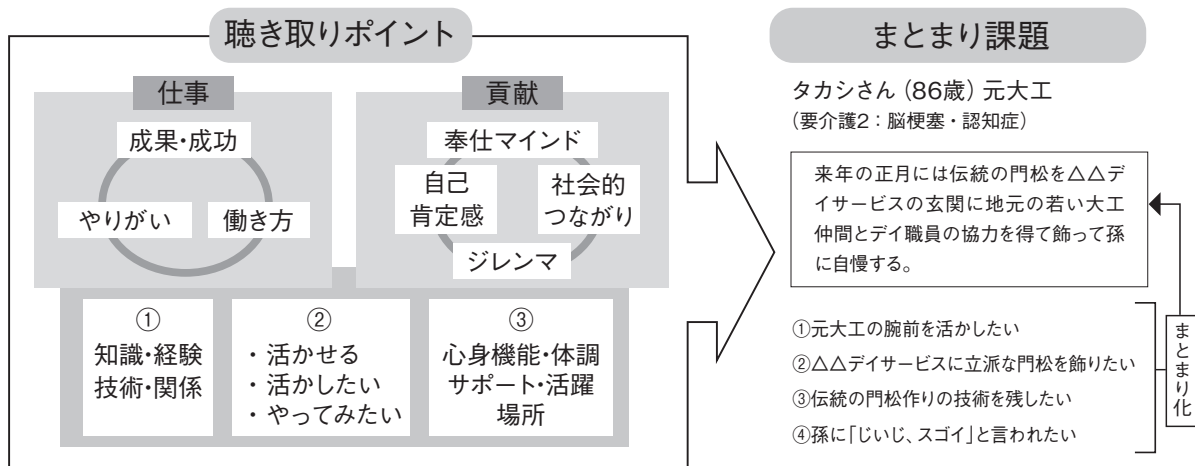
1. 奉仕マインドに着目する

ボランティア活動に携わる人は、福祉に強い関心を持ち、人助けに喜びを感じます。困っている人や社会的に弱い立場の人々への共感が深く、自分の時間や労力を惜しまず提供することに満足感を覚えます。



高室しげゆき <https://caretown.com/>

ケアタウン総合研究所 代表 (ケアプラン評論家)
京都市出身。日本福祉大学社会福祉学部卒業。2000年、ケアタウン総合研究所設立。ケアマネジャーを始め地域包括支援センター、行政、施設等にケアマネジメントを軸とした幅広いテーマで研修、コンサルテーションを行う。近著に「目標思考型介護予防ケアプラン記載事例集」(共著・日総研出版)「利用者・家族に伝わるケアプランの書き方術」(中央法規出版)、「地域ケア会議コーディネートブック」(第一法規出版)など著書多数。



・ 「なぜ〇〇のボランティアをしようと思ったのですか？」

2. 自己効力感に着目する

ボランティア活動は社会的善意への参加(いいコトをしている)で自己効力感を得ることが多く、感謝をされることで自己評価が高まります。仕事や趣味で身についた「技術と経験」を役立てることで「ヘルパーズ・ハイ」というポジティブ感情を維持することができるかとされます。

- ・ 「とくに役に立ちたいと思われることはどのようなことですか？」
- ・ 「感謝をされるとどのようなお気持ちになりますか？」

3. 社会的つながりに着目する

ボランティア活動を通じて地域社会やメンバーとのつながりが深まり、対人関係は広がり充実します。

- ・ 「新しくつながった方とは今でもおつき合いは続いていますか？」

4. 葛藤(ジレンマ)に着目する

ボランティアに励む人のなかには、自分のなかの未解決の負の問題(例:戦争体験、介護体験、子育て体験)やジレンマを整理(贖罪、恩返し)するために語り部(講演)、居場所づくり、相談窓口などに地道に取り組む人がいます。

- ・ 「どのようなジレンマやご苦勞がありましたか？」
- ・ 「今も伝えたいことはなんですか？」

仕事・貢献タイプの「まとめ課題」のプランニング・ポイント

単純にかつての仕事やボランティアに「復帰する」ことをめざすにはムリがある場合には配慮が必要です。「知識・経験・技術」とともに「人間関係・ネットワーク」と本人の思いに着目し、まとめ課題をプランニングします。

①知識・経験・技術・関係を聴き取る

数十年の仕事、数年以上のボランティア体験者は「その道の専門家」であり、「ネットワーク」を持っています。本人にとっては当たり前の経験や技術も素人からすると「羨望したくなる経験や技術」だったりします。

- ・ 知識:金融・製造・運輸・農業・栄養・家電・教育など
- ・ 経験:営業・販売、運送・送迎、経理・総務、教員、農家・釣り師など
- ・ 技術:美容・理容、調理、接客、運転、教育、栽培、教育・保育など
- ・ 関係:仕事仲間、会社仲間、職人仲間、業界仲間、顧客など

②活かせる・活かしたい・やってみたいことを整理する

多くの人は仕事経験やボランティア経験が他の役に立つとは考えていません。業界内では重宝される知識や技術も一

般にはなんら役に立たないと思っている人が大半です。

話されるエピソードの中から「何が活かせるか・やってみたいか?誰が支え手になれるか?」の視点で深掘りし、「やる気スイッチ」を引き出します。

- ・ 見せる・教える:身についた技術(例:料理、美容、米作り、縫製)
- ・ 話す:体験記、苦勞話など

③心身の機能と体調、サポート、活躍場所をシミュレーション

仕事・ボランティアに100%復帰はむずかしくとも、得意分野に特化する、できること・楽しめることからシミュレーションします。

- ・ 心身の機能・構造:動作、知覚、認知、コミュニケーション
- ・ 体力・体調:活動レベル
- ・ サポート:環境因子(福祉用具等)
- ・ 活躍場所:集いの場・通いの場等

仕事・貢献(お世話・ボランティア)をまとめ課題に設定して、本人の有能感と自己肯定感、社会的役割を担うチャンスを作り出しましょう。

※まとめ課題:意欲動機づけシートなどから抽出された複数の課題をひとつにまとめた課題。(同連載2023年5月号参照)

▶意欲動機づけシートはケアタウン総合研究所ウェブサイトよりダウンロードが可能
https://caretown.com/write/dl/bo_kaigyobou.pdf